

稚松小と部活動地域移行  
と地域包括ケアと九龍橋



はまぐち じゅんや  
濱口 淳也  
議員

一問一答



動画でチェック

◆稚松小学校の整備について

**Q** 令和5年度の調査費は。

**A** 今年度、総合調査を実施し、結果を踏まえて、実現可能なモデルプランを複数案取りまとめる。

**Q** 令和6年度の進め方は。

**A** 令和6年度は、モデルプランについて詳細な検証を進めた上で、地域の皆さんと共有していく。

◆中学校の部活動地域移行

**Q** 令和5年度、小松市内中学校運動部の休日の部活動について。

**A** 剣道とハンドボールの2種目をモデル事業として先行実施、実践検証を行っている。また、これらを参考に野球、バスケットボール、陸上競技など試行的に取組を始めている。

**Q** 今後の取組について。

**A** スポーツに親しむ機会は様々である。部活動の地域移行を通じて生徒が様々な運動に親しむ機会となることを期待してい

る。今ある課題の改善を図り、引き続き体制整備に努めていきたい。

◆地域ぐるみで介護予防自立支援

**Q** 地域包括ケアの現状は。

**A** 各町、地域において、いきいきサロンなどで健康増進、介護予防の体操のほか、交流会や清掃活動、花壇整備などのボランティア活動も活発に行われている。

これらは、隣人との見守り合い、社会参加、地域貢献につながり、住民自ら支え合う地域包括ケアの一助になっていると考えている。

◆地震で被害を受けた九龍橋川

**Q** 九龍橋川の整備について。

**A** 今回の被災箇所は、小松市内でもかなり大規模な災害であり、複数のインフラ施設があることから、3事業（九龍橋川排水路の護岸工事、下水道管路の損傷の確認、道路復旧工事）について、工程調整をしっかりと図り、周辺の住民の御理解をいただきながら、円滑な復旧工事に努めていきたい。

能登半島地震の被害状況と  
地域医療の充実に向けて



おかやま あきひろ  
岡山 晃宏  
議員

一問一答



動画でチェック

◆博物館、美術館、錦窯展示館の被害について

**Q** 確認されている建物の被害は。

**A** 美術館関係の被害はなく、錦窯展示館は一部被害があったが修繕済みで、博物館は地盤沈下等の被害があり利用を停止している。

**Q** 展示物、所蔵品などの被害は。

**A** 展示物のごく一部に被害があったが修復し対応している。

**Q** 本市が所蔵する貴重な所蔵品をデジタルコンテンツ化し教育的な資料、観光政策に活用しては。

**A** 地域文化財の保存・活用の一つとして資料のデジタル化を推進していきたい。

◆公会堂の被害について

**Q** 確認されている建物の被害は。

**A** 5cmの地盤沈下や液状化現象等、重大な被害が確認された。

**Q** 予約済みの団体等の状況は。

**A** 指定管理者の小松市まちづくり市民財団から施設利用の停止の連絡を行った。

**Q** 利用増が見込まれる市民センターの駐車場不足解消について。

**A** 会議室やホールの利用を制限する等、予約時に調整を行っている。駐車スペースの課題も含めて施設全体の効率的、効果的な運用を検討する。

◆市民病院のIT化について

**Q** 現在の取組について。

**A** 電子カルテやAI問診を導入し、診療情報<sup>アイディーリンク</sup>を共有するIDLinkに市内医療機関の約59%が参加している。

◆通院弱者への取組について

**Q** 交通手段のない高齢者が身近に診療できる公民館等を利用したオンライン診療を取り入れてはどうか。

**A** 地元医師会などと連携して地域医療に与える影響や課題等の整理を行っている。IT化の取組を積極的に進めている市民病院を含め、本市全体の地域医療の充実に向けて協議を進めていく。

震災時の水源確保に  
井戸の活用を



きのした ひろゆき  
木下 裕介  
議員

一問一答



動画でチェック

◆震災時の水源確保について

- Q** 災害用井戸の導入を。  
**A** 災害時サポート事業所の協力項目に井戸水の提供を追加したい。

◆市民病院について

- Q** 当初予算でハラスメント対策と人事評価制度の見直しを外部委託する事業が示された。それぞれ外部委託する理由は。  
**A** ハラスメント対策は多種多様なケースに公平公正に対応するため。人事評価制度は専門家の知見を通して、働きがいのある職場をつくるため。  
**Q** 新設するハラスメントの外部相談窓口では、どのような専門性を有した方が対応するのか。  
**A** 外部の臨床心理士や産業カウンセラーなどに対応していただく。  
**Q** 相談しやすい環境を整える上で窓口の受け付け方法、対応時間は。  
**A** メール等による24時間の受付、電話では平日や土日、祝日、夜間も対応できるものにしたい。  
**Q** 窓口の運用はいつからか。  
**A** 新年度早々に開始したい。

- Q** 窓口設置をどう周知するのか。  
**A** 院内のメールで定期的に通知するほか、チラシ、案内文で確実に全職員に周知する。  
**Q** 相談後の流れはどうなるのか。  
**A** 外部による調査結果を基に、病院の苦情処理委員会でハラスメントの認否を行う。  
**Q** 新人事評価制度の実施時期は。  
**A** 十分に検討した上で民間委託を行い、速やかな実行を目指す。

◆小松市ライドシェア

- Q** 被災者支援として市は2月末に無料でライドシェアを実施した。再度行っはどうか。  
**A** 運行上の課題や被災者の生活サイクルを踏まえ検討していきたい。

◆市犯罪被害者等支援条例

- Q** 具体的な市の支援は何か。  
**A** 見舞金の支給や相談に対して必要なサービスにつながるよう関係機関と連絡調整を行う。  
**Q** 転居費用を助成してはどうか。  
**A** 今後柔軟に検討していきたい。

市民病院の救急対応と新幹線  
開業後の観光施策について



よしむら のりあき  
吉村 範明  
議員

一問一答



動画でチェック

◆市民病院の救急の電話対応について

- Q** 電話対応及び問診は誰が行うのか。  
**A** 電話交換から救急医療センターの看護師へつなぎ、患者の電話対応は看護師が行っている。救急車の受入れは救急医療センターの看護師が直接電話を受けている。問診は、救急医療センターの看護師が行っている。  
**Q** 待ち時間の告知及び診察不可の場合の対応は。  
**A** 目安の待ち時間を看護師から患者へお知らせしている。診察不可の場合は、他の医療機関を案内し、かかりつけ医での受診が可能であればお願いしている。

◆救急外来の対応について

- Q** 待合室は。  
**A** 通常、救急医療センターの待合で待つが、発熱者は駐車場で待機し、看護師がお迎えに出向く。  
**Q** 駐車場で待っている患者さんへの連絡手段は。  
**A** 看護師から電話連絡している。  
**Q** 南加賀急病センターとのすみ分けは。  
**A** 南加賀急病センターは、小児科と内科で夜間の急な発熱や腹痛等の症状の方が対象。南加賀救急医療センターは全科対象

で脳疾患、心疾患、外傷等、緊急に診察が必要な方が対象。

◆那谷寺の調査について

- Q** 調査の目的及び調査内容は。  
**A** 文化資源の新たな価値付けと磨き上げを目的とし、建造物及び名勝、美術工芸品や古文書、那谷寺遺跡を調査している。  
**Q** 今後の計画は。  
**A** 令和12年を第一目標年と定め進めていく。

◆花山法皇の菩提所について

- Q** 大河ドラマを期にPRを。  
**A** 那谷地域全体を広く発信することが望まれる。まずは那谷寺の活用推進から取り組みたい。

◆これからの観光ビジョンについて

- Q** 観光ビジョンと小松市への誘客の考え方は。  
**A** 「ここに行きたい型観光」から、「あの人に会いたい型交流」へとシフトする。  
**Q** 実施に向けた市長の方針は。  
**A** 4つの基本方針により小松の魅力を「もっと深く、おもしろく」していく。

誰もが暮らし続けられる生涯安心のこまつ



うめだ としかず  
梅田 利和  
議員

一問一答



動画でチェック

◆老朽化した市民病院本館の建て替えに向けた新病院基本構想の策定

**Q** 現状立地における水害対策について。

**A** 洪水ハザードマップでは小松市街地全域が浸水し、市民病院においても浸水区域内となるため、水防タイムラインに基づき構内の浸水を防止するため止水板を設置し、病院の機能を維持する。周辺道路の状況や内水対策に取り組んでいる関係部署と連携しながら、安全・安心な医療施設となるよう基本構想を策定していく。

**Q** 産学官による研究開発や研修機能の整備について。

**A** 2040年ビジョンにおいて市民病院周辺エリアをウェルネスエリアとしている。このビジョンの下、公立小松大学に隣接した立地環境を生かして、産学官が連携し、新たな医療分野における先端技術の研究開発や教育、研修などができる環境や施設、設備などについて、基本構想策定の過程で検討していく。

◆民間活力を生かした、市営住宅跡地の新たな活用に向けて

**Q** PFI手法も視野に入れた活用策について。

**A** 民間事業者の技術力、ノウハウを活用したPFI事業により、既存住宅の解体、子育て世帯向け市営戸建ての賃貸住宅整備、分譲宅地の3つの事業を総合的に行うことを検討する。

**Q** 子育て世代向け市営戸建て賃貸住宅の整備について。

**A** 子育て世帯を後押しする充実した居住環境を図る。市街化調整区域では、民間事業者が新たに賃貸住宅の建設が出来ないことから、公共が主体となり整備を行う。市が戸建て賃貸住宅を整備することで、集合住宅隣戸間での子どもの声や足音などの生活音に対する問題も解消され、子育て世帯ののびのびと安心して子育てできる戸建て住宅の整備を検討する。

誰もが健康で元気なまち・小松を目指して



よしもと しんたろう  
吉本 慎太郎  
議員

一問一答



動画でチェック

◆带状疱疹ワクチン接種について

**Q** 今回、新たに助成される内容は。

**A** 主に50歳以上が対象で、医師の判断により2種類のワクチンから接種できる。

**Q** 対象となる50歳以上の方々への幅広い広報と周知を。

**A** 広報こまつ、市ホームページ、市内医療機関でのポスター掲示などで周知する。

**Q** より効果が高い不活化ワクチンに対してさらなる助成を。

**A** 令和6年度についてはこの金額でやっていきたい。

◆事業所サロンについて

**Q** 介護事業所が新たに「事業所サロン」を行う意義とは。

**A** 各事業所の企画により、多種多様な活動が展開できるため。

**Q** 従来のいきいきサロンや、ゆったりサロンとのすみ分け、融合は。

**A** 健康上の理由により従来のサロンに通えなくなった方でも利用でき、従来の

サロンとのすみ分けは可能。

**Q** 震災避難者の参加を促しては。

**A** 個別に健康状態を見て必要なサービスにつなげていきたい。

◆千松閣閉館に伴う高齢者福祉施設の在り方について

**Q** 元気な高齢者の生きがいの場創出のためにも、閉館が決まった千松閣の代替「施設」及び「機能」の確保が必要ではないか。

**A** 時代とともに生活の質、価値観や行動は変わってきている。現状の千松閣は必ずしも高齢者の今日的な価値観、ニーズに沿ったものとはなかなか言えず、同じ機能を持つ施設を新たに整備することは難しいと考えている。



閉館が決まった千松閣



令和6年能登半島地震の  
復旧などの対応について



かたやま しゅんじろう  
片山 瞬次郎  
議員

一問一答



動画でチェック

◆小松市の液状化現象について

**Q** 下水道関係・浄化槽の被害状況について。

**A** 管路は105か所、下水道は3町内で被害があった。浄化槽は個人設置のため全体把握は難しい。

**Q** 液状化の宅地被害を抑制・防止事業について。

**A** 国、県においても個人宅地の地盤改良補助はない。住宅建設地のリスク判断材料としていろいろな情報を開示していく。

**Q** 小松市の二次避難者の受入やみなし仮設・入居被災者の状況は。

**A** 2月末時点で1,107名受け入れている。

**Q** 被災者と高齢者向けの地域サロンの交流状況は。

**A** 声かけにより交流の場がもたれている。

**Q** 災害ごみの受入と県の協議状況、対応は。

**A** まだ要請はないが、要請があれば市民生活に影響のない範囲で最大限の受入をしたい。

◆ひきこもり支援の孤独・孤立対策への強化について

**Q** ひきこもり相談支援の居場所の提供、伴走型専門スタッフとは。

**A** 社会福祉法人と連携し居場所づくりを推進する。社会福祉士等の有資格者が相談対応を行う。

◆中山間地でのドローンを活用した新スマート物流の状況は

**Q** 社会実装への進捗状況と課題は。

**A** まずは陸送を軌道にのせつつドローン配送を進めている。住民周知、着陸場所の協力、ドローン操縦者の育成が課題となっている。

◆「認定こども園だいいち」整備事業について

**Q** 土地の地盤状況と周辺の内水対策は。

**A** 地盤調査を行い設計に反映させる。計画が具体化した段階で、雨水対策を判断する。

**Q** 移転後に、認定こども園だいいちの跡地活用は。

**A** 民間事業者等への売却と宅地開発・分譲などを検討したい。

## 予算決算常任委員会総括質疑

### 会 派 自 民



東浩一 委員



動画でチェック

◆消防施設災害復旧費

**Q** 地震で被害のあった消防施設と活動状況について。

**A** 大きな被害があったのは南消防署庁舎だけ。被災地の消防支援は3月6日までで計66日間、延べ115名を派遣。

**Q** 消防団員入団への取組は。

**A** 防災士の会と消防団で意見交換の場を設けるなど行う。

◆建築行政指導費

**Q** 耐震補助制度について。

**A** 今回新規の上乗せ加算制度は補助率1/2、限度額100万円を補助するもの。

**Q** 補助対象期間の拡充は。

**A** 昭和56年5月以前の建築が対象。国や県の動向を注視していく。

◆強い農業ひとづくり支援費

**Q** 現状と今後について。

**A** 販路拡大は小松産のPR、生産者の所得向上、担い手育成

の効果があり、積極的に支援する。

**Q** クロスコンプライアンスへの取組について。

**A** 農林水産省が、令和9年度以降の実施を計画している。生産者への周知、必要性の理解、意識向上を図る。

◆尾小屋鉱山資料館周辺持続活性化事業費

**Q** 尾小屋マインロード完全復旧及び尾小屋鉱山資料館リニューアルについて。

**A** 令和10年、近代尾小屋鉱山の銅鉱脈発見から150年であり、その年を目途に、県や関係各所と調整し進めていく。